

薬品処理で3、4年間美しく

# 枯れない仏花人気

お盆を前に、仏壇に供える仏花として、薬品で特殊加工して長持ちさせる「プリザーブドフラワー」が人気だ。従来は生花が定番だったが、暑さや節電を受け、気温に左右されず、長く楽しめるため支持されている。札幌市内の生花店では、昨年比比べ注文が2・5倍に増えた店もある。

札幌市豊平区のインターネット専門の「花の音」は、7月から8月上旬のプリザーブドフラワーの注文が昨年同時期の2・5倍に。秋の彼岸まで注文が入っており、稲田雅人社長(44)は「生産が追いつかない」とうれしい悲鳴を上げる。

7割が道外からの注文という同店には、7



プリザーブドフラワーの仏花が並ぶ札幌の仏具店

月中旬以降、猛暑や節電で、生花が枯れやすくなったという声が多くなってきたという。プリザーブドフラワーは、暑さにかか

わらず、3、4年間、美しさが保たれるため、好まれるという。プリザーブドフラワーの仏花は、カーネーションやガーベラを材

料に作ることが多い。3〜5種類の花を使い、3千〜5千円程度が人気になっている。

札幌市中央区の仏具店「野村仏壇ギャラリー」も、7月からプリザーブドフラワーの仏花の注文が200件入った。昨年より売れ行きが良く、同店は「淡い色合いの仏花は、置いたそばから売れていくほど」と驚く。自宅の仏壇に飾る厚別区の主婦鎌田寛子さん(65)は「暑い中、花を買いに行くのは大変

で、特に夏は10日ほどで枯れてしまう。プリザーブドフラワーは、造花より温かみを感じると話す。

海外の芸術祭などに出品する札幌のフラワーアーティスト秋谷祐子さんは、人気の理由について「これまでのプリザーブドフラワーはバラなどが中心で華やかなイメージだったが、加工技術の向上で仏花に向いたきれいな花も使えるようになったため」と分析している。(水野薫)